

## ■ 26億人の、トイレがない！

1日に約8回、1年で約2,500回。  
時間に換算すると、一生のうちに約3年間。  
私たちが毎日利用し、時間を過ごすその場所とは？

それは、トイレ。



「世界トイレの日」のロゴマーク

日本に住む私たちにとって、清潔なトイレがあるのは当たり前のこと。しかし世界に目を向けると、26億の人々が、安全で衛生的なトイレを使用することができない状況にあります。実に、3人に1人という割合なのです。

11月19日は、国連が定めた「世界トイレの日」。トイレがないことで、世界ではどのような問題が起きているのでしょうか。今回は、トイレと子どもと教育の関係について、日本赤十字社が支援を行っているネパールでの事業と併せてご紹介いたします。

## ■ トイレと子どもたち

トイレがない。この劣悪な衛生状況のもとで生活する人々の中でも、最も大きな影響を受けているのが子どもたちです。抵抗力が弱い子どもは、不衛生な環境から下痢を患い、そのために1年間で約30万人が命を落としています。

また、トイレがないことは、他にも大きな影響を及ぼしています。それは教育です。毎日通う学校にトイレがないために、特に女の子たちが通学をあきらめてしまっています。プライバシーを守れるトイレがないことは、思春期を迎えた女の子には切実な問題なのです。

## ■ トイレはどこ？

写真は、ネパールの小学校(仮設校舎)の様子です。2015年4月に発生したマグニチュード7.8の地震で校舎が損壊してしまったため、子どもたちはこの仮設の校舎で勉強を続けています。さて、トイレはどこにあるでしょうか？



仮校舎の外観。トタンの屋根と壁です。



仮校舎の内部。机も椅子もまばらです。

実は、この学校にはトイレがありません。

少し離れたところに位置する、もうひとつの別の仮設校舎にはトイレがあります。しかし、ふたつの仮設校舎を合わせると約 100 人の子どもたちが通う学校なのに、トイレの数はたったひとつ。

日本の小学校であれば当然のように男女に分かれ、複数の個室が備え付けられているトイレも、この学校にはひとつしかありません。男の子も女の子も、皆が同じトイレを使わなければならないのです。

また、水道の設備も壊れてしまっています。水を流すことも、十分な清掃はおろか、子どもたちが手を洗うこともできません。清潔とは程遠い状態です。

## ■ 学校に、清潔なトイレを

これらの写真は、日本赤十字社が実施しているネパール地震復興支援事業の様子です。地震により大きな被害を受けたシンドパルチョーク郡において、日本赤十字社は、被災した人々の住宅や地域の診療所の再建などを行っています。

同様に力を入れているのが、学校と衛生設備の再建です。地震に強い学校を建設し、衛生的なトイレと水道設備を整えれば、子どもたちは安心して学校に通うことができます。

特に女の子が教育を受け続けることができれば、学力が向上してより多くの可能性が生まれます。

また、教育の重要性を知ることで、将来、彼女たちが母親となったときに、その子どもたちの育成に良い影響を与えることにもつながります。

安心して使える清潔なトイレが、学校にあること。これは、子どもたちとその未来に関わる大切な問題なのです。



学校関係者と日赤ネパール代表部の職員

## ■ 日本赤十字社の国際活動

日本赤十字社は、190 の国や地域に広がる赤十字のネットワークを生かし、世界各地で様々な国際活動を行っています。その一つが、保健衛生事業です。

- ・ 自然災害や紛争の発生直後に、被災者へ医療や衣食住の支援を行う、「緊急救援」
- ・ その後、被災した人々の生活や、地域の立て直しを支援する、「復興支援」
- ・ 平時から人々の健康を守り、衛生的な居住環境を整備する、「開発協力」

これら全てのフェーズにおいて、日本赤十字社は保健衛生事業を実施し、トイレの建設、安全な飲料水の供給、手洗い等衛生教育の普及などを行っています。

人々が、健康的で安全な生活を営むことができるように。

日本赤十字社はこれからも、世界中の赤十字社・赤新月社と共に活動を続けていきます。

～今回のニュースはいかがでしたか？**ご意見・ご感想**をお待ちしております～

良かった・もっと知りたいテーマや記事、改善してほしい点など下記アドレスにお寄せください。

ご意見・ご感想をいただいた方の中から抽選で毎月 1 名様に**赤十字グッズ**を差し上げます。

いただいたご意見・ご感想は今後本ニュース内でご紹介させていただく場合があります。

☆☆ 日本赤十字社国際部 [kokusai@jrc.or.jp](mailto:kokusai@jrc.or.jp) ☆☆